

# とちぶん会報

No.66

2021年12月15日

栃木県文芸家協会 発行人 福田 三男  
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町16-18 三上方  
〒321-0226 TEL090-9318-2492

## 朝明第10号が発刊

朝明第10号(発行日:2022年1月1日)が、当初の予定どおり刊行されました。発行部数は前号より10部増刷し340部です。会員各位には同封したとおり2冊送付します。

コロナ下ではありますが、これから迎える年末年始、会員がペンを執った作品の数々にゆっくり目を通して味わっていただければと思います。

第10号が発行されたことにより、前号の第9号はバックナンバーとなり、作品をPDF化して協会ホームページにアップロードされます。これによって、インターネット環境のある方はどこからでも朝明第9号の全作品を閲覧することが可能となります。掲載され次第、このことはホームページのトピックスでお知らせいたします。

### ※ 追加注文のご案内

追加注文を希望する場合は、同封した合評会の出欠返信ハガキ、事務局へのeメール(アドレス:hmikami1@outlook.jp)・電話(090-9318-2492)のいずれかの方法でご注文ください。在庫がある限り承ります。

## 朝明第10号への意見・感想について

朝明第10号へのご意見・ご感想をお寄せください。同封した合評会の出欠返信ハガキに書き添えていただくか、事務局へのeメール(アドレス:hmikami1@outlook.jp)でも構いません。

いただいたご意見等は、整理して来年1月16日(日)に開催する合評会において資料配付する予定です。

## 朝明第10号合評会を開催します(新春懇親会は中止)

朝明第10号合評会について、今回はコロナ禍により急遽中止となりましたが、今回は以下のとおり開催することとなりました。会員の積極的な参加をお願いいたします。

例年合評会終了後に開催していました新春懇親会は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みて、前回と同様に中止することになりました。あしからずご了承ください。

- 日 時 令和4年1月16日(日) 午後1時30分～3時
- 会 場 栃木県教育会館 [宇都宮市駒生1-1-6/TEL 028(621)7177]

／JR 宇都宮駅方面から関東バス「作新学院・駒生」行きに乗車し「東中丸(会館前)」下車  
駐車場有り

- ※ 当日はマスクを着用し、発熱している方の来場は不可。
- ※ 同封した出欠の返信ハガキを1月7日(金)までに事務局あて必ず送付してください。
- ※ 新型コロナウイルスの感染拡大により、栃木県において緊急事態宣言が発出される等の事態になった場合、前回同様に合評会は中止します。この場合は、出席予定者に対して、事務局からその旨の連絡をします。よろしくご承知おきください。

## 第3回編集会議を開催、朝明第10号は校正・印刷へ

朝明第10号発行に係る第3回編集会議は、11月11日(木)午後3時からおかりやにて開催されました。7名の委員が出席しました。

印刷会社から届いた初校ゲラを各部門の編集委員に配付し、初校は各編集委員が担当して行いました。二校は編集委員長が行って責了とすることが了承されました。

会議終了後は編集委員有志4名が残り、同所にて編集を労い懇親を深める会食を設けました。ビールや銘酒に酔いながら楽しく歓談いたしました。

## 『創作への志』 会員通信 No.22 随筆部門 館野 ひろ子

空襲、疎開、戦後の極貧。遠い時代の死語になってしまいそうな体験、そして人の運命を左右する闘病の日々、それらを心のままに書き記すことを、50代にして、遅咲きながら夢中になった。終戦時の貧しい時代の母と子の心の機微を描いた作品、父母、自分の闘病を書いた作品、それぞれ胸を熱くする。今は冷めた目で時を斜めに見ている自分に愕然とする。しかし『鬼滅の刃』に、夢中になれる余裕は残っている。

若人に阿ることなく、病に支配されている80半ばの枯れた心身にも、枯れた味のある物の見方、方向性があるだろうと消えそうになる野心を駆り立てている。

## § 寄贈書籍の紹介 §

- 「イチオシ 栃木 とちぎの魅力をうたおう」／発行人・佐藤孝子／発行所・栃木県歌人クラブ／発行日・令和3年9月30日[発行所からの寄贈]
  - ・栃木県の魅力度が都道府県別で最下位になった状況の中、「イチオシ栃木」をテーマにした短歌を募集したところ、195名・195首の作品が集まり、これをまとめたものである。
- 「花筏」／福澤悦子著／発行日・1999年10月31日[著者からの寄贈]
  - ・栃木新聞の「乱反射」「栃の実」欄へ連載した随筆、栃木県内の高等学校勤務時に勤務校の新聞・研究紀要等に寄稿した文章、さらに歌集を載せている。173ページ
- 「句集 啄木鳥 第9集」／発行人・矢倉乱白／発行・エーザイ豊友会啄木鳥会／発行日・2019年5月1日[俳句部門斎藤光星会員からの寄贈]
- 「句集 啄木鳥 第10集」／発行人・矢治光風／発行・エーザイ豊友会啄木鳥会／発行日・2021年5月1日[俳句部門斎藤光星会員からの寄贈]

## \* ∞ \* 事務局通信 \* ∞ \*

朝明第10号が発行されました。10号は一つの節目になります。今までの「時代」発行から名称を「朝明」に変更して10年の歳月が経過した訳です。10年前の平成24年、新型コロナウイルスの感染などという事態は誰が想像出来たのでしょうか。映画や小説ではパンデミックというものをテーマにした作品がいくつもありませんでしたが、まさかこんな現実になるうとは、誰も予想出来なかったことでしょうか。地球温暖化の議論も10年以上前からありましたが、その深刻化、対策の切実さはさらに増してきました。これも想像したとおりだったのでしょうか。ここまでになるとともに考えていた人は少なかつたはずでは。

これからの10年を見据えると、自動車はEVの普及が当然のことになってくるでしょう。自動運転の開発も進展しているに違いありません。情報のデジタル化は更に進行し、学校の教科書はタブレットが常識の時代になっていることが容易に想定されます。ペーパーレス化が進んで印刷会社は減少していることも予想されます。お寺や神社も減っていき、葬式も墓も更に簡略化されたものになっている世の中が見えてきます。宇宙旅行経験者もたくさん出ているはずでは。

そんな時代になってしまうと「朝明」の発行は一体どうなっていることでしょうか。冊子体の発行はなくなっているかもしれません。いや発行されていても、電子媒体が主体となってそれを補完するものになっているかもしれません。しかし、栃木県文芸家協会は今と同じように存続していることを願っています。(三上)